

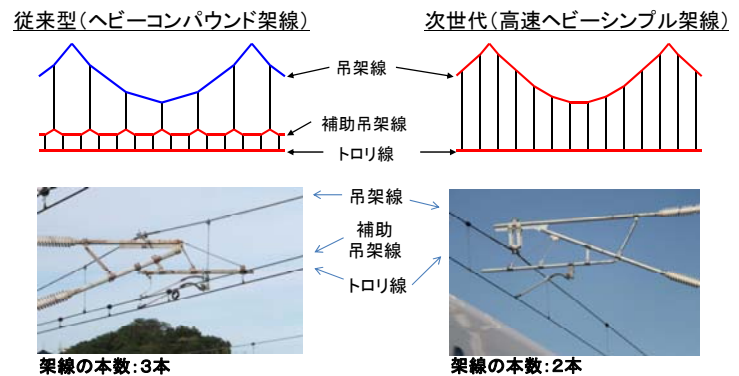
## 東海道新幹線における次世代架線の導入について

当社では東海道新幹線の特徴である長編成、高密度かつ高速走行に対応し、低コスト化が実現できる次世代架線について、小牧研究施設において営業線に近い条件下の試験装置（電車線試験装置）を用いた技術開発を行ってきました。このたび、高速区間の現地試験を行い、実用化の目途がつけましたので、老朽取替工事に合わせて順次導入していきます。

新幹線架線の比較図

### 1. 次世代架線の概要

- ・大電流容量のヘビーシンプル架線を開発しました。
- ・従来型は架線が3本でしたが、次世代型では補助吊架線無くして、架線を2本としました。架線が1本減ることで、部品点数を低減することができました。



電車線試験装置



### 2. 次世代架線の導入による効果

- ・部品数が減ることで、部品が原因となる故障発生が削減されるため、安全・安定輸送の向上が図れます。
- ・架線の本数を従来の3本から2本にすることで、部品点数が低減でき、導入以降の取替におけるコスト低減を図ることが出来ます。(約2割削減見込み)

### 3. 今後のスケジュール

- ・平成26年11月以降、曲線半径2500m以上の明かり区間（トロリ線の交差箇所除く）に順次導入していきます。(東海道区間の約7割に相当)
- ・残る区間についても、引き続き技術開発を進めます。